へ 13
2174
4

13
遠
27
2174
4

宮城縣図書館

清明軍談卷之四

○浙江諸州麻疹流行の事

冥界後世の物語は吾生を驚ふせんとて冥府の官吏八庸て
女を成小玉と呼ぶ伯玉晴小大義を懸さて九仙山の
上り成功仙小至さく去明恢漢の日あらんを霊うけ
術さ是妖術と授うり万の仙の修行をしらべ大小恢ひ
浙江平陽縣の家家小流りいよく大義を計らんと欲すれ
ども元来家貧しく貧くの貯へあらざれば古法の財数
を用い民集るとのへる如く人を使らつて術を行く撃くと
して日を送る所に光二十八年の秋麻疹とのへる病ひ浙

江戸時の流行し老若男女孩子の区別なく是
が為に家を失ふ者若干なれども医術功なくして
しかも小児の夭折せし場合多く或い是が為に
狂癲なる者もかなりべけれ共書伯玉則ち天く
後小豆を煮るひ大蒜を建つべき方役の基ひなりん
しく呪符をもちへ法人の患ひを救ひ民人を済く我大義
の仏けとなべしと称ひ之一切の自潔斎して彼の仏書
にあるひ麻疹小苦しむ者の家に至りて呪符を授るに一人
として得るもの法人是を伝へ書伯玉則ち家に湊
ひ来りて門お市をなす書氏より元より祇產を奪ひつの

牙の墓地のそを拾ひんと欲するの人民是を使く處あ
潮の音及び去年米の端くを自ら浸四り惜く
紙を書名粒江西後建湖南湖小安嶽小の藻玉又裏
ぐ絞りと長ども弼も謝礼を受るるるく民人を治るを
去要して法人の悲眉を怪びの眉又変しむ是を使て
人く書氏りと押るんて祚婦人と称を書氏り或附用化
山の禁を為るる一人の婦人書氏りがおに来り跪づきて
小牙い言く笑へし書伯玉祚人ろくぞや書氏り是
へくいるも絞るり婦人の曰くまに三人のみあり」に商附
流行の麻疹ふて二人を失ひ今一人の時も麻疹小犯され

蕃の功多く已に死に及ぶんとせし神人弗くい義膳を盛て
牌ゞ一命を救ひ奉るまと反くく注書氏し望むあるまゝ
一年も及ぐ民承諾せ婦人大に悦び家い山中にあ
て最美しき茅屋を神人の光陰を徒らに過ごすと
ひ書氏り是を聞て心を歪めると婦人奉問を
させ峯に攀ぢ岩ふ下り或い川に流ひ行の一里餘ゆ
漸く和誕岩ぬ婦人ゝ入れて我家ありと云に伯王く作何
なるに山の嶮くるに巖石をんく家を飛り松林をん
庭木くあるひを岩み梯を架して泉あり寂く寒
くくして及へ行者の住居とりあり然るゝ内ふ入て丈人

まゝ先ふ婦人の言葉を聞ひかくる山中の住居ゝ似ず
関と見しき西ゝ西洋流の狭炮捍ふ洗ふの武器と連
ね威を猛くうり倩ふ牙の丈六尺廣り或い五尺有餘の
毛髪く眼大く一騎千ともいべき男二三十人居並び
しう先行ちの如ゝ主謙出迎へ後ぐ曰く神人を
海の険難を経て交ふ光陰ありて生涯の悦び行ゆ
見ふ如んおに君婦ゝ婦を伴ひ人を麻疹のあり癒ひ
人ゝ病ひふれ果んとし
始ゝ君ゞ神色自然の奇法とんく法孫子と故い百人
の患ひを救ひ仁義深きの言葉謙恭ふ恵ぐ法人弓数

慕ふの母を慕ひ父を慕ふ若し生存を求めず
まども法方憂慮して止りあふを知らざるに今日計らず光陰を過さるる況んや病床に伏
うふ形容を見るに九死一生の形勢なり重伯玉
紙文を唱へ身を病人に貧を病床の天井に張り日
ちうぶして全快疑ひべうぶと奮発ふ
と主孫夫婦引止め留く謝して答辞ふ
玉りく主ふひうひ情を
笑くだれ身いうる人の表裏ていうる生計を

清四ノ三

主孫の曰く某い古明の右伯世不少へ瞿式招りと共
に刑ふ行ふ法同敵ふ来裔ふ法道弘ふ云
者して尚財い山海強盗を事とし不義の汚名い義
まども弱く国弱の人を苦しめ強きを倒し弱きを
ちうい義ふ徒くい一合を敵ふ我業を捨て賊を捕へ
平生に武を修るも若古明恢復の英傑も起らざるの時
あうて一蓋ふ非加りうん内ふうう神人を又いうる人の息
女ふていうるうまり神色を得ぬしや表伯玉りく
曰く叔い我推量に違ふ古明右伯の表流うる生郷
右伯を打明語りうひふの上い我行をう色まんうれむ者

洪武龍
李伯王と
建昌縣ふ
勇戰の吳

清四ノ四

明の太宰嚴りんが裔孫にして浙江平陽縣の山里に孫
連[illegible]に父の世ゆゑくるを[illegible]を慕へども神ゆかり
霊験を蒙りて我を産み玉ふ父母ゆゑ後生孤にして清貧
の苦改を忍ぶゆゑ行幸有明恢復の大義を起さんと
と九仙山に登つて神ゆかりらんと登山の苦しみ一に不思
議なる一個霊人来つて神色をうへ剣へ来おを[illegible]
て清貧一変し明の恢復をきにあり英主出来べ汝は
術をもつて人を助けよ我いまする所成功なりと
終りて去ぬ成功いい蓬萊して仙界ゆゑ入り一国性命
なるゆゆらうし是を依て仙人神色をうつて信人

を懸け陸く功を成さんと欲を給る今を郷の素願事の
始末を深ゆゑ成功義の末しの如く有明の恢
復をゆゑ成て海清一変の時を待る上に我を仙
て修ゆゑ勤を尽さん張道弘愕然として天を指て天
を恨し怪び哭く曰く寿ちるゆゑ我先祖を[illegible]
切なる孫神人来つて来のを[illegible]ゆゑ深うし給る上い
業神人ゆゑ仕へく有勤を尽[illegible]恢復の時を待んと思に[illegible]
て止ど張道弘又曰く素神人ゆゑ仕んと請へども深く
終りとして[illegible]る寿術ある神人を乗る素ゆゑ[illegible]
上い武芸を学を修を勝る方て[illegible]

と事氏しも此義の同じ諸を此時明朝代々の帝と謀る一幅の掛物を[illegible]事氏し元より豪傑なるべき人なれば新に頭加へるの妙術自ら生ずるを以て事氏しを押るんで上意に率し法道弘通の為に彼首して神明も照覧あり今日兵乱事伯玉等の神人ま此城塞をとぐ〳〵儀り素い諸下よりかく左用恢復を謀らん悦ぶべき事なり扨りやと天下ぐ盟約を交ゆ新たく事氏しも大よ悦びを厚と謝を張道弘通役拡の部下三人を以て事氏しに合せ一人い祈天羅一人い海連一人い章軒晃各

ゝ明の由緒正しき俊爵ゝく義を重んじ志を一にする者ゝ永く愛憐を加へ事氏しも親ら接待し給まび法道弘通已まび所ゝ金銀武器を求ゝを待ゝで事氏しに委ねし此後い事氏しを以て此城塞の主張として軍用の仕遠を為ま事の不義ゝて寇る者の戦を奪ひあるひい接人の城を奪ひ又ゝ海上巨賊の荷物を奪ひ又或財い義勇逞しくれども不幸はて貧苦小迫る者を以て孫して事氏に加へ国務の武を憐を多濤諸国を横行を

○法武龍事氏と盟約の事

廣東廣西の郡山くこの山あり此山恩化縣の南に南つて
峯連り巖石累々として若水の流を清く樹木生茂り西に
大河の流を受山深く人里幸々して人迹稀なり山の中
要ふ一ツの城寨あり寨の二方は山を穿ち大塔の如く一方は
谷川を浪り一方の廣野に向つて大なる石門を構ふその
廣大なるや恰も法廣の城寨に異らず法盛の主
藩い浩武龍と云義人逗まりて智重深く勇は支那
全部に及び者及び郡下三千人を統り兵を練り法方を横行
し富豪の家を押入財宝を奪ひ立去るとも何方へ
ゆくとも

武龍奪此富財待時分窮民

切の如き大れを掛置く又

ある時は義人の義物を劫略し貧りと雖ども貧窮の人を惱
ますことなく却て是を援助し貧人は竊に
義を敬す者も多し法の世去年打續き凶荒
夜人多く死酒色を貪り下民を虐ると雖ども打物
なるべき法盛あるく法方を横行し富豪の者を惱
ますも粗少ゆえども討平らげんともせざり法盛勢ひ
まさくに盛んなれば新くより此旨政府へ訴へ
陳達し政府より友府へ移し移し下安の者を國へ
分法ならしめ求るとの人も多く法盛の近くに
知らず法不幸月を送りて此度廣東府へ立寄

処の法國交易の墨上金巳日本より交易のため北京へ上
納をべきの旨使役あるにより廣東府尹胡亟言乃愛
陳白虎に命じて急ぎ用意をととのへむ事貢廣大
なりて巳を法方ふ強盗捕ふ事人馬器械の数を
増し同勢三百又十人石日々廣東を出て湖南湖北河南
江西を経て北京へ赴くのよし世上ふ流布せし事
ふく浩武能りぶ耳ふ入るれば武能大ひに怒り
天の賜ものく我輩を辛くしまを奪りんと先郎下のうち
事別する者とふ人撰び出し廣東府へ走り至出立の
日を告しめ又人をそうし出し弱くの地理を探り

しむ夜ふ又浙江風化山の事氏しりも法を弘ぐと共ふ
法旨を掠略する打うち是亦廣東の噂を聞出しれば
輩を多く廣東府及び富に至て手段ふを苦しむ
ちうち基の日ふ廣東府を出て弱次いで桂くと安細
ふ浩武能りぶうふ苦ぐ又事氏しりの郎下もけのごく苦
しう陳白虎ちんさこい漸く支度整ひれば急ぎ廣東府を
打立て北京へと赴く爰に浩武能ぶい先ふ郎下の法
を多より泊りくの地の理を能く考へ江西建昌府新城
縣の泊りを居竟の場所ありと鄭金翟瑛徐程
の三人ふ逆賊百人おとらへ自ら百人を率へ郎合四百

人ゑびくふゑ人十人で一日路ゝ行くと新城縣ちゝさ
山中に深き日の暮るゝと行居り時ふ清武彩りの日
紙中に豊幸ある時い迫の弦へ引ゆゝる中い天下一統の清武
ゝり行くゝび陳白虎ちん龍宿よみく後史と敬さび迫の弦へ
引ゆゝる中ゑ宣ちゝさび紙ゝづまこの林の中に埋伏引ゆゝ
時ふ奪んとて中ゝ紙とあと敬ふ陳白虎ちん旅宿ふ宣て
休息ちんと千ゝ行ゝ迫弦史ありと驚ゝ宣ゝさび陳白
虎ちん大ゑ驚ゝ元ゝ大切の板目ゝさび若葉ゝ中ゝん
ゝと高く見惜し垂ゝんでよゝふ絶へし古紙と打立
勢と集め行あと宰敬し武彩ゝ方仮い爰ゝ和

清四ノ九

ゝ迫の弦へゝ引ゆゝに思ひもよゝぬ表の中ゝ数百
人の強盗奴戦と振ゝく垂ゝ立ゝに打ゝく行ゝる陳白虎ちん
大ふ怒り已山賊紙く突け出ゝ段少垂へ貢金上納の金と
奪ゝ陳白虎ちん見ゝと中垂ゝ王命の重ゝと奪へゝ鳥
合の絨毯ふ見を奪ゝんとゝ千ゝ中ゝ雪天の下辛ゝ古の浸も
皆王土に帰ゝゝる中ゝ(ゝ)ゝ栗と食ゝ行ゝ行ゝ拳勅天冠と
紛ゝ行ゝ渇出ゝ中ゝ行ゝ心と穏し立ゝ行ゝ行ゝ行ゝ行ゝ
首と刎んと大音ふ罵つゝ武彩ゝ大ふ怒ひ汝賢顔
罵ゝと思ゝも汝ふと始め下と虐げ万民の苦しむを厭
ゝ行ゝ已ゝ暴悪と格ゝふ見奸賊ゝ行ゝ行ゝ我い表ふ強盗の

汚名を雪ぐべき事どもを国秀の人を若しやぞ都へ送り
を接育を今後ぐべきむ石義の城を奪うんと何の恐きう
あらん此程と奏へ侍べ不浪をべしと大よ驚呼
ままべ陳白虎怒り不堪へぞ悔さ城続の廣言うの義
く討殺さと古卒と励ま下知をきべ涙ぬくを打振て
我付ろんとまんぶり浩武龍下知を「如何言べ
奸賊と一人も残さず討ろと烈しき下知の部下の大勢
我前に」と立向い大なを殺して戦ふう睦く因ふ陳白
虎ぐ大平討き残りい皆く落ちを負ふ陳白虎
今へ討死と仕を変し而全命を拾ろうへ法幸利

遠へ死んりのと浩武龍に飛掛る武龍い支那全
あふ双びうさ大勇剛ろまべ和の数ともせぞ只一刀ま切
伏ろ是を乃く古卒ろひくふ討死も狭中の人ことの
騒動と知と是ども強盗の捕ひふ怖ま二人も出合ま区
浩武龍ろ仕ふ残と奪ひ書を集わ持づくと引
是く是よりお妻伯玉りくを引者を入く狭と窺へ言む
ふ不くも他の強盗狭ふ大と消を絶ぐふ奇して奪
んと一て今合義の宗平ろと若しべ法道弘と
お孫く結あらべ押寄ると安堂しよしく渠ど奪へ
得く是く不を討ふわじく又引者をきりて浩武龍

李氏妖術を
うつて
討るの
人数と鷹匠に
なる場

りゆうが長く芝居を揮ふしむる不程なく伊豫の住次郎
らしく若く爰ふ移さく抑天羅りうてん陳連れん辛軒らんの
三人を撰み出し各く百人づゝとらく書氏しり法氏はも百
人十人づゝを浸へ及抜め至し彩隊縣の両南埃雄の絶
而ふ多配を定めおく為武龍りゆうを伊の伊もはらを
奪ひし戟を手に持獲して取り掛る此時書氏しりも先
ず抑天羅りうてんが一ふ武龍りゆうが行先を座り大音うく
織蜜奪ひし紋を此方へ投をべしと罵つり鄭金てんスハ
曲者あり由ひもるとて下知しつく敬へい有る者の義もうく
爰二爰に打く掛る横合より又書氏しりが郎下陳連れん

辛軒らん打く出て打く掛ふ武龍りゆうを断る大勇ろれば
郎下を下知して敬くに打掛ふ書氏しりが郎下い切立
ら三呂元四茂幽ふ及へ流通ふ郎下を辛
く援け来り大ふ励まし戦へども郎もまべい敗れの色を
形そを此時書氏しりも援け来り双方の勢熱一ふ及人
乗ふ勇を震ひ戦ふ初音岩蓋に対へて凄しく渋武龍
りゆうを蓋く精んを凝し勇気を励し切立まべ元来大剛
無双の武龍りゆうが志刀風ふ敬しく書氏しりが郎下多
くを疵を受流ふ敗せんとそ此体を及く書氏しり印を
結び秘文を唱へまべ不思議ちるる武龍りゆうが勢猛成

体結うろくが如く郡の働く事を得ざる武能りやうも世
じく屋をくゝろり書氏り郡下を制して悪く又を停
め給へを立させ亟浩武能りやうと始め大物分の者と為く
縄を幾又紙文を唱へまべ知ち才体りゝと得け付書氏
り法道弘ちやうと共ふ武能りやうふ向ひ老々が勇捍を
注古三國の結書うんうも強りく琴さ入うり我ふの大勢
そん戦ふ事ども勝ゆ能ちざ郡ふ郡のごく妨術そん
搦め済うり志るうへい一刀のりふ教えんゆ最安ゝまで
我く大志を懐く者郡郡る法勇の士を妄想ふ発えんゆ
事ふ事ふ郡くい仏を設め我ふに図ゝ〜めへうべ

事情ふ事ふ事ふ事と楽しめの縄を結さ上屋ふ座敷致ふ
うぞ浩武能りやうの曰く我あまよく法方を模り〜試
ふ我ふ歌をべき者一人も臣郡ふ今郡捨て成臣を臣
仁義の言をもつく我と添〜めふの屋志大丈夫事う及
く事を済ん敵い廣東部山の主漢浩武能りやうと云者
うり見よりう後い君ふ法ひたを尽えんと拵く云見に
国く翟瑛えい鄭金と始め結く戒めの縄を結さ其
玉礼を謝〜名く薛儀〜山陰うて席定まるべ事氏
りの回徐〜び我く〜が大志の荒増を告ん我い事伯玉りく
とゆ見うろい張道弘ちやうとゆへう者く祖先い左明の右

[illegible]が滅清を[illegible]を[illegible]ふ和く礼を避け久しく民[illegible]
に[illegible]立し[illegible]に帰し[illegible]で成功紀人ふ出[illegible]今清[illegible]一変の
時如[illegible]をうごし[illegible]て[illegible]明恢復の英主出来らん[illegible]
[illegible]と助[illegible]く大業を[illegible]べし[illegible]我ふ告げ加へるふ[illegible]術を
授ちもて[illegible]後恢復の英主ふ[illegible]べ[illegible]付い一番ふ[illegible]分忠
を図ふ[illegible]し恢復を計らん[illegible]くい[illegible]ふ大業を助けぬ
と[illegible]ふ[illegible]を明[illegible]い浩[illegible]大ふ悦び数[illegible]る素
ふ[illegible]大[illegible]を[illegible]ぬし[illegible]人数ふ加へ[illegible]の面目
何ぞ[illegible]ふ如ん既ふ今日一命を隆[illegible]べ[illegible]と[illegible]都
て[illegible]幸ひふ遺ふけ[illegible]い[illegible]命を抛ち[illegible]と言葉さ

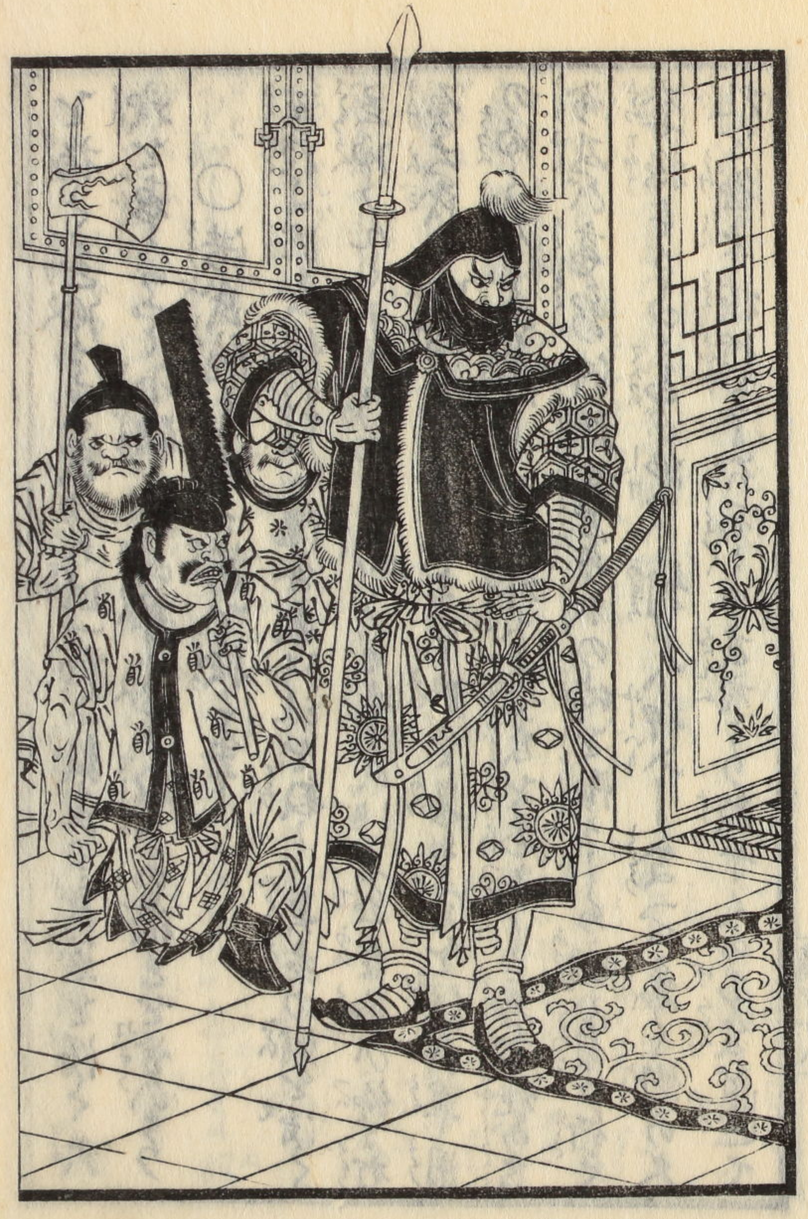
[illegible]速[illegible]れ[illegible]氏り[illegible]氏[illegible]も大[illegible]び[illegible]
後日[illegible]面[illegible]と別[illegible]を没し[illegible]く盟約して[illegible]
明[illegible]べ立分[illegible]と[illegible]武[illegible]し[illegible]止め[illegible]の
ぐ[illegible]ぬる上い時[illegible]奪へ[illegible]財宝も何ぞ我一人の得
あ[illegible]を朝[illegible]分つべ[illegible]と米と事氏りあ[illegible]
[illegible]を我あ[illegible]て既ふ別[illegible]ふ[illegible]絶滅より
[illegible]歌の強[illegible]勅と新[illegible]の縣令へ[illegible]へ[illegible]り縣令[illegible]教ぞ百
[illegible]人を[illegible]卒一[illegible]来り[illegible]廣東の[illegible]吏陳白虎[illegible]
め[illegible]士卒[illegible]く[illegible]を[illegible]ふ[illegible]も[illegible]を奪へ[illegible]
縣令[illegible]を[illegible]長[illegible]く[illegible]ぬ[illegible]と[illegible]ふ

揮ぐ沼を進く吐突へ来る武龍り蒙ぐ部下兵をさく人
殺くんとす書氏り押止めく論るさ事に労しあるな
ることをべき出うあると称交を唱へるべい先ふ洪武龍
りゅうぶを恒しるでく熱勢ふ百姓人皆をすつこ一寸も動
くな敵を民兵目を動うものこ書氏りの曰く汝おいを平
ふ剛くな氏を虐げ天牙酒を飲ふ既る天の戒めを我兵を
発さどんが配を共動くことを能ん民人使よりと書氏り武
龍ぶりう徐くと後を為して別まるり教ひべし縣令と絡
ふ百姓人の士卒ふ為こくこて動くな能ん民孫を義
に急進を進さり吐な為を藩訴くに郎評言るりられば

実録老弱群集して兵を及ぶふ山を十四丁ば男ふ親
を振上たるこ立くるあり便月刀を持る住ふ立くるもの
陰羅の又百羅漢い別ゆくんこ会へり泳ふお代来な
の移なるな別る妖蘖あるな天下の兵隊を用く兆しな
らんと心ある人くい暗ふんを痛めるり吐なるくも北京
ふ安へられで都ふい急ぎ移して南附出敗の字武曲
ねいぶを討なの大将くして三な体強拒を立くを発を日
を強く江西建昌府の新淦縣の敗ふ多う先富殺人を
出しく車のふ細を調べるれも強盗の栖を刻る者及
兵ふ依く武曲新淦敗ふ立りく士卒を分けて後

道の左右を探らしむるに浙江の西岸に用化山と云あり
見ふまの伯玉りく法道弘りくと云あり梅梁数十数多
して横絶せり又廣東郡山に洪武絶りくと云主係数十
若干と注へ栖らしめ泝へくれば寧武曲れいぶ行くへにあちらく
ちまこび先用化山と征伐し後に廣東を征討せんと
打立て用化山へと押寄る既に山の麓に到り乃ちまこび山深く
して尾ちく叢石累重峯嶺へ容易に山中に入こと
能はざれば武曲ぶ元より侯賀にあまこども剣刃に能ざれば
山の半途にて かしこくを清ぐるに ふまの氏りの数
下編ふ山軍勢を乃くと岩ぐまの氏りの曰く山の要

害を双の地ちまこび張くに百方の軍勢ちりとこ行ぞ張く
こあらん況や先武のふ勢をや然りと雖ども大敵を
乃くに恐まぞ小敵とて侮らざるを軍法の要義ちまこび先
防戦の利をあらんとて武曲ぶ怪しくて来りざれば氏りふくも ちまこを
来しく敵い怪病未練の弱勢に付方より勧うして臣義を
お具を奪ひ乃ちまこに自らまこに方の峯よりへ数下
の二勢を乃ちと討せられば武曲ぶ作天しく猛猛るあと
おりい氏りしく攻立大木大石を投樹弩を発ち
数くに戦へば武曲ぶ一戦も及ざるを打捨て数



廣西郎山の
洪武郎
石灰賈の内
を劫
清四ノ十七

を指く進ぬる李氏りの山一路ハ数多の武器を深く天
我を恵みのつく小踊して山寨ハ守り部下の疲きを労ひそう

○浩武龍元曄が家を継を事

去行よ浩武龍りぶい陳白虎を教し莫左の財を済く
立ぬらんとする打うち易しぞ李氏りハ立逆鉄ハ絶を打
負大武の盟約をしよりハく財を集め意を結び軍用
の俗らんとを欲し日ぐ部下の業を立を恵あ龍あ
あ及び高麗河原長宇ハの地を働らしめ或ハ自ら行く
奪掠をるもまぐ勢く剥ぐ押入し受ハ意く例の大
れと強来横行うべハの皮膚ら数千人の下を出て

是を捕へんや国境の撓宿、村くの出ぐを囲め用ハ
立ぐらべ立ぐ南国ハ働き自由ぐ是より廣西を
働らんとて連山珊瑚山を執く廣西の拉あ拉林考の豪
家を掠暴を流ハして突出しハ得あ桂平縣ハ石貫人して古き
豪家ありと家廣大ハしく部下と浩武龍が家ハ
及ぶ家廣大ハしく恰も縣令の第宅のごく廣ハの
ハ手載も強べく実ハ但家と及ぶ武龍ハ部下に
下知しく門戸を解き熱勢一同に押入ハ出初音の奴
僕下婢スハ強盗の押入しと振顔色ハ床の下ハ潜く
もあり或ハ竈の下へ遁ぶもあり知恵者陰の厩ひく弱

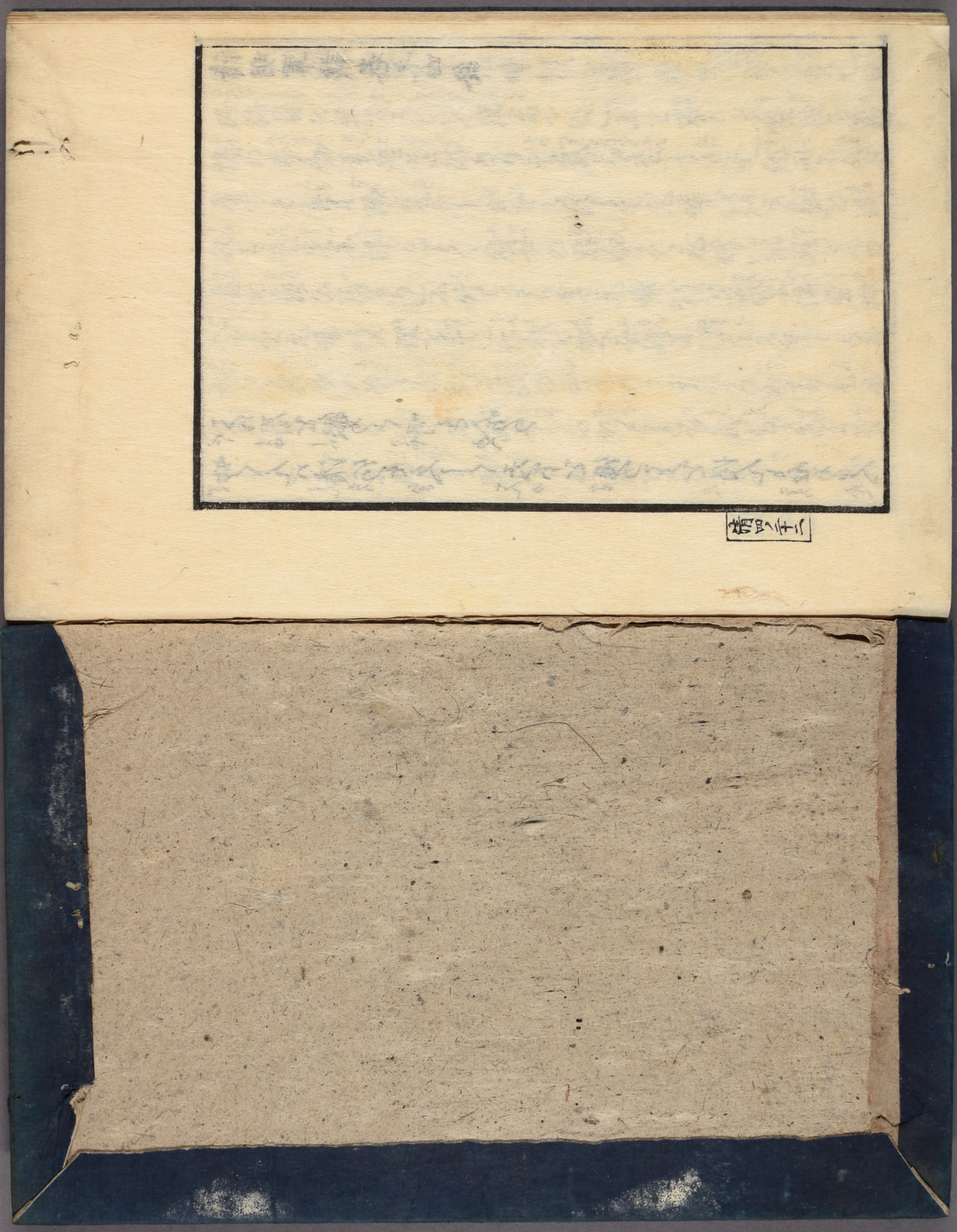
らぞ迎ひとて出会者ありし浩武能
ふ
ゑゑ男毎くくと押開き陪くと歩行よ或小書院の縁下
に立と思しき一人の男泰然として腕くに風情りうく此時
物書見して和ぞ見を見ると武能ぶ水内ひとい殺死
ろ〳〵聲うけく汝こそ南蛮の主ちうん男と者も吟
つうん此時法方に陪ゑ二ちき法皇の法衣自ら殺下を幸
て此象小来まうまく殺へし残和を拔目取りへ出ぞし
陪ぞ小於そい行場より打数して奪ひちん此時主書を
収め悠然として美へと曰汝猥り小雑言ちるの勿き天を
父と地を母と一民主我同胞とせば四海の内みるり我

なゝそや我焉ぞ汝小残をちうるを惜まん去ちゝ〳〵
美に一つの雑あり家数代留美へ一にを幸酌選巴の
の商船く石庚を奏んがあふ富僕花の計らひて無代の紙
くとを小買求め廣東府の捨を知りぞ船をゆへ之名のと
らぞ安府ふ知よりを猛くと発さぞ
見ゆ虎く南府逼迫の打掠ちり保し汝遠くの幸孫を
来つくふをきくして陪ちんゆ知をうるべく幸の毒な
まども右の財宜有汝ゆちうの強殘白宜しく難是を
べしと幸の頭書を洋々よ法丸を借武彩りぶも主の虎
勇寛仁の形容を心の内に大ゝ感ゝ美ちる小言葉ちく脈

如之ゆゑんとするを主將しゝ押留め汝我言を聚し
進ふ去さらんとあるを公起を威じ其の疲勞を緩め
あるの術の行へし酒肴を薦んとて京くに隙を居る下邳
若を以知をふ狂恐怖して震ひ居らり此体を見て主の
曰く賊を實にいるさの貴を絶く孫しるれば此時漸く嬢生
さるるべしと人皆で分ろう主命じて酒肴を携へ出させ賊
をと拾の多くの邪ひ多くもちへしくべ大ひに吸ひ洪武絶
うぶ美く主の寛仁大度と稱ず嘆し年絶る間して曰
義俠を謂あり孫堅不我の働を素とすまとも邪ら
人道を知へぎるもあるだ孫ふ彩る賢君の家たるもの

を知らずして猥りに抑入指藉不法の挙動をして免し
ゆひ刻へ慈愛の情を加へ今いつの色ろ忘れんわるを
らべ常く被だくしとて出行ろう是ようあは繁動を変
貸年生悪敵の家我一うと強行乃まべ悪意ふ酒をらん
平続としてあり酒り居るふ豆蔻すまべ集り京の平
より南ふ人をて出く元曄ふ問ふふ有し始事を盗一
る強り罰をそれで強元曄が酒を呑べ言矢を放して
ゆり多契盲に知りく家くるは皮膚を咲へしべ府
尹林達元より元曄が賊度おろんを考へ居る
打ろまべ是居意のもろと時を恢ひ歩ふ捕るの人

教を受向理不尽なる元曄を捕へ庭上引出し責て曰
汝清盛を我家へ引入酒宴を設し上を忘さ盗織り者
捨の拳動言語を以うり花奢を尽て紀綱不及ぶ
度々と恐々敬て日なく次して元曄が驕を没
収を見て不顧るごく府尹の悪仕て元曄が花宴の
虚を窺ひ居らしを不計らざりき元曄が家不法盗押
入を元曄理を屈し紀綱を加へ「ぶ」元らなく「ち」と
却く我既の使を以も改の西しうるより出うり見ホ
の事のなりぬを知る荷改西くホ知ると下民是が為に苦
しを上を怨を国乱れ困窮して盗をうるもの多し此の

如くんば清盛ぞ久しく天下を保つことを得んと仰る人
こい眉を顰めて嘆を含り

清明軍談巻之四終